

建設汚泥・発生土の有効活用へ 3団体共催でセミナー

(一社) 泥土リサイクル協会／資源循環コンソーシアム／宮城県建設発生土リサイクル協同組合

(一社) 泥土リサイクル協会(木村孟理事長)、資源循環コンソーシアム(北辻政文代表)、宮城県建設発生土リサイクル協同組合(赤坂泰子理事長)は10月31日に仙台市内で、3団体共催による「建設副産物および循環資源の有効利活用〈再生利用時における品質管理の在り方〉」をテーマにセミナーを開催した。

開会に先立ち、赤坂理事長は「宮城県内では震災復興計画が発展期を迎え多くの工事が進捗しており、膨大な量の建設発生土をいかに円滑に有効利用するかが求められている。しかし、良質な山砂が手に入る県内では、再生土をなかなか現場で利用いた

だけないのが現状だ。建設副産物の有効利用について正しく理解していただきたい」とあいさつした。

セミナーでは、泥土リサイクル協会から、事務局長の野口真一氏とグループ統括の鶴田稔氏が、建設汚泥再生品の利活用のポイントについて、同協会の発刊書を用いて建設汚泥処理物の廃棄物処理法上の取り扱い等を解説した。

続いて、東北学院大学工学部教授の飛田善雄氏が、宮城県内の建設汚泥や発生土の発生量、再資源化施設数を踏まえつつ、利用促進のためには行政や住民に対して客観的な技術要因だけでなく、心理的な信頼を得る努力が必要だとした。

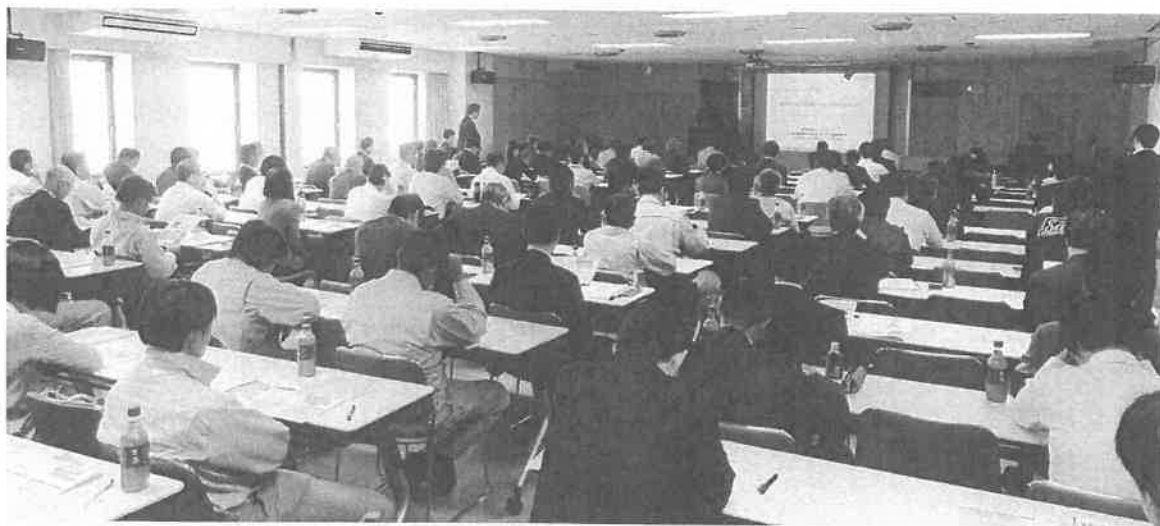
最後に、国立環境研究所の遠藤和人室長が、環境省から研究費を得て進める、廃石膏ボードリサイクルの研究事業と同事業内で作成中の「再生石膏粉の有効利用ガイドライン(試行版)」について解説した。



赤坂泰子氏



野口真一氏



会場は満席となった